

幼稚園実習と保育実習を経験した学生が抱く

幼稚園教諭と保育士のイメージの比較

—色彩連想テストとテキストマイニングによる自由記述の分析から—

Comparison of Images of Kindergarten Teacher and Nursery Teacher

Thinking by Students Who Experienced Practice Training of

Kindergarten's Teacher and Practice Training of Caring

in Day Care Centers

— Analysis of a Color Association Test and
Free Description by Text Mining —

園 田 雪 恵

SONODA Yukie

夙川学院短期大学

幼稚園実習と保育実習を経験した学生が抱く 幼稚園教諭と保育士のイメージの比較

—色彩連想テストとテキストマイニングによる自由記述の分析から—

園田 雪恵

キーワード：幼稚園実習、保育実習、職業イメージ、色彩連想テスト、テキストマイニング

1. 問題と目的

1-1 幼児教育の背景

近年、少子化の進行や共働き世帯の増加により、幼児教育の在り方が検討されている。子ども・子育て支援に関する対策がとられるようになり、すでに20年の時が経過している。そして、2015年4月から子ども・子育て支援新制度による幼児教育・保育・子育て支援への総合的な取り組みがスタートした¹。

その中で、幼稚園と保育所が一体となった就学前教育・保育施設としての幼保連携型認定こども園の設置促進を図ることを目標として掲げている²。幼稚園では、地域の実態や保護者の要請に応じて、希望する者を対象に、預かり保育が行われてきている³。

保育所では、2008年の保育所保育指針の改定において、これまでの養護の視点に加え、幼稚園教育要領に示されている保育内容5領域に準じた教育を行うこととなった⁴。現在、保育所では、養護と教育を一体化した保育をすることが、求められているのである。

つまり、幼児教育の動向としては、幼稚園と保育所の保育内容や保育時間の隔たりを解消しようとしていることがうかがわれる。幼稚園は、預かり保育により、保育所における保育時間の差異を埋めることに努めることとなった。保育所では、幼稚園の保育内容に準じた保育を実施することで、異なる保育施設の差異をなくそうとしている。

これまで、幼稚園教育要領や保育所保育指針は、およそ10年ごとに見直しがなされ、改訂が行われてきた。現在、幼稚園教育要領や保育所保育指針は、改訂の節目にきている。2017年2月に公示された幼稚園教育要領案、保育所保育指針案および幼保連携型認定こども園教育・保育要領案においても、幼児教育における連携をよりいっそう図っていくことが求められている⁵。

そもそも、幼稚園は、文部科学省が管轄する学校教育を行う場であり、保育所は、厚生労働省が管轄する児童福祉施設である。両者を一体化することは、幼稚園教諭と保育士の意思疎通・理念の共有に困難さが伴うことが考えられる。鈴木（2014）は、わが国では、幼稚園は幼児を教育し、保育所は子どもを預かり、保護していると捉えがちであり、幼稚園のみが教育を担っていると差別的にみる動向があると述べている⁶。

幼保一元化の動きは、かなり前からあるものの、いまだに完全な一元化の実現には至っていない⁷。幼稚園と保育所のイメージにも、違いがある。つまり、幼保一元化が叫ばれる現在においても、幼稚園に勤務する幼稚園教諭と保育所に勤務する保育士には、職業のイメージに違いがあることがうかがわれる。

1-2 学生が抱く実習経験後の幼稚園教諭と保育士のイメージ

制度改革が進行している幼児教育・保育の流動期に、学生は、幼稚園で教育実習、保育所で保育実習を体験することになる。保育・教育実習は、これまで保育者養成校で学び得た知識により、保育の理論と実践を統合し、新たな課題を発見する場である。

同時に、現場で保育者の業務に触れ、その職業観を抱き今後の職業選択をする契機にもなる。松永ら（2002）は、教育・福祉関係に就職を希望する学生は、卒業後の職業選択に強く影響を受けた事柄として、教育・保育実習の経験を挙げることが多く、就職後、実習の体験が職業イメージを具現化するのに役立つことを明らかにした⁸。将来、保育職に就くためには、その職業に対するイメージを明確にし、獲得していく必要がある。幼稚園や保育所で行われる実習は、いわば、その職業観を得るための格好の機会になると考えられる。では、学生が、実習先で抱いた幼稚園教諭と保育士の職業観の違いは、どのようなものであろうか。

学生を保育実習経験者と未経験者に分け、保育士のイメージを調査した原（2004）は、学生の持つ全体的な保育士に対するイメージは、あたたかく思いやりがある等のイメージ持っていることを明らかにした⁹。また、樟本ら（2007）は、保育士と幼稚園教諭の大きな違いは、保育士が生活援助を中心業務とする一方で幼稚園教諭は教育援助を主な業務とするところにあり、幼稚園実習により、幼稚園教諭は、保育士と比べて自分の考えや、自負心をもち、自分の力が試される職場というイメージを持っていることを示唆している¹⁰。このように、学生は、実習を経験することにより、幼稚園教諭や保育士の職業に対するイメージには違いを持つことがうかがわれる。

1-3 色彩連想テストによる幼稚園と保育所のイメージ

豊田ら（2008）は、現場の保育者や保護者、女子学生を対象に、松岡（1983、1999）の理論による色彩連想テストから、幼稚園と保育所のイメージを比較調査している¹¹。

色彩連想テストとは、これまでの単語から連想語を答える言語連想ではなく、単語から連想される色名を回答するものである。これは、被験者の深層にある感情を解明するために有効な簡易的投影法である。その結果によると、女子学生においては、幼稚園は、「黄」に象徴されるように、「歓喜、快活」のイメージであるのに対して、保育所は、「桃」に象徴されるように「愛らしさ、清純、未成熟」というイメージを持っていた。このように、投影法においても幼稚園と保育所に対するイメージには違いが示された。

園田：幼稚園実習と保育実習を経験した学生が抱く幼稚園教諭と保育士のイメージの比較
ただし、この研究においては、校種の違いによるイメージである。各職業観に迫るには、幼稚園教諭と保育士の職業イメージの違いを問う必要がある。また、女子学生群の幼児への接点にばらつきがある。

幼稚園と保育所の実習経験をすべて終えた学生は、幼稚園教諭や保育士の職業イメージの違いが、より鮮明に表れるのではないだろうか。実習で得た職業イメージは、今後の就職先決定にも多大な影響を及ぼすものと考えられる。

そこで本研究は、幼稚園教育実習および保育所保育実習を終えた学生の幼稚園教諭と保育士の職業イメージの違いについて、色彩連想テスト及び自由記述により検討を行うことを目的とする。

2. 方法

2-1 調査対象者

調査対象者は、近畿圏内にある保育者養成短期大学の2年生である。分析対象者は、調査日までに幼稚園教育実習及び保育所保育実習をすべて終えている。なお、調査した保育者養成校では、幼稚園教諭免許と保育士資格を取得することが、卒業必修となっている。幼稚園教育実習は、1年生の11月に2週間、2年生の6月に2週間行われた。また、保育所保育実習は、1年生2月に20日間行われた。

協力の得られた学生105名のうち、記述内容が不明瞭な者を除き101名を分析の対象とした。

2-2 調査時期及び調査内容

調査日は、2013年10月である。回答直後に調査用紙はすべて回収した。筆者の担当する授業において、10分程度の時間を使い、色彩連想テスト及び自由記述による幼稚園教諭と保育士の職業イメージの調査を行った。

2-2-1 色彩連想テストによる幼稚園教諭と保育士の職業イメージの調査内容

色彩連想テストによる幼稚園教諭と保育士の職業イメージを調査した。調査用紙は、豊田ら(2008)が用いたものを参考にして表1の用紙を作成し、学生に回答を求めた。

表1 幼稚園教諭と保育士の色彩連想テストの調査用紙

みなさんは、これまでに幼稚園や保育所で実習をしてきましたが、幼稚園教諭、保育士ということばから、それぞれどんな色を想像しますか。色の名前を1つだけ記入してください。	
幼稚園教諭	保育士
(色)	(色)

2-2-2 自由記述による幼稚園教諭と保育士の職業イメージの調査内容

自由記述による幼稚園教諭と保育士の職業イメージの調査を行った。具体的には「みなさんは、これまでに幼稚園や保育所で実習をしてきましたが、幼稚園教諭、保育士の職業に対して、それぞれどのように思いましたか。あなたのイメージを書いてください」と質問した。

3 色彩連想テストによる幼稚園教諭と保育士の職業イメージの結果

3-1 幼稚園教諭と保育士の職業イメージ（色彩連想反応の結果）

色彩連想テストによる幼稚園教諭と保育士の色彩連想反応の結果を表2に示す。

幼稚園教諭			保育士		
色	人数	%	色	人数	%
赤	19	18.81%	桃	30	29.70%
オレンジ	19	18.81%	オレンジ	18	17.82%
青	18	17.82%	水	16	15.84%
黄	16	15.84%	黄	15	14.85%
桃	9	8.91%	赤	6	5.94%
水	8	7.92%	薄桃	4	3.96%
緑	5	4.95%	青	3	2.97%
黄緑	3	2.97%	緑	3	2.97%
赤紫	1	0.99%	黄緑	2	1.98%
薄水	1	0.99%	肌	2	1.98%
白	1	0.99%	薄紫	1	0.99%
虹	1	0.99%	虹	1	0.99%
n=101					

幼稚園教諭の連想色彩名のうち、10%以上の連想率があった色彩名は、「赤」「オレンジ」「青」「黄」である。幼稚園教諭の職業イメージの連想色彩の4色は、18.81%から15.84%であり、ほとんど差がなく、この幼稚園教諭は、この4色の職業イメージがあるともいえるだろう。

豊田ら（2008）が行った調査においては、「幼稚園」に対するイメージとして、女子学生の1位が「黄」34.77%で最も多く、2位「水」12.90%、3位「青」12.19%、「桃」12.19%であった¹²。その調査においては、幼児教育に関する5つの語彙(幼児・幼児教育・保育園・幼稚園・保育)を調査した。今回の調査においては、幼稚園教諭と保育士の2つの職業に対するイメージ色を回答したため、豊田ら（2008）が行った調査とは違った結果になったと考えられる。

松岡（1983、1999）によると、「赤」は、肯定的にしる、否定的にしる、強い感情と結びつくとされている。幼稚園教諭のイメージは、「活発さ(活動性)」や「力強さ(力量性)」を有して

園田：幼稚園実習と保育実習を経験した学生が抱く幼稚園教諭と保育士のイメージの比較
いる解釈される。「情熱・怒り」などの感情にも結び付くことから、職業の厳しさを感じ取っ
ていることもうかがえる。

しかし、感情の強くきついイメージを持つ反面、「青」に象徴される「冷静な・落ち着き」と
いうイメージを持っている。つまり、学生は、幼稚園教諭は、沈着冷静な客観的判断をしてい
るイメージを持っている。「青」は「知性」を示すということから、知識を具えた教育者として
捉えていることがうかがえる。

また、「オレンジ」に象徴される「陽気・にぎやか・暑い」というイメージや、「黄」に象徴
される「歓喜・快活」という明るいイメージもあることも示唆された。

保育士の連想色彩名で、最も多かったのは29.70%の「桃」である。続いて、「オレンジ」「水」
「黄」であった。この3色は、17.82%から14.85%であり、ほとんど差がない。

つまり、学生の保育士の職業イメージとして主に連想される色彩名は、「桃」であり、補足的
に「オレンジ」「水」「黄」が連想されていると考えられる。豊田ら（2008）の調査では、「保育
園」に対するイメージとして、女子学生の1位が「桃」28.32%であり、この色のイメージにつ
いては、ほぼ同じ結果であった。2位以下については、「黄」12.54%、続いて「水」12.54%と
なっていた。

保育士の職業イメージは、主に「桃」に象徴されるように、「弱い、やさしい、快い」など温
和なイメージがあるといえる。また、「桃」には、「愛らしさ」という感情が喚起されるとして
いる。保育士は、乳児に対する保育も行う。したがって、保育士の業務は、母性的なかかわり
が必要であると理解していることが考えられる。

松岡（2001）は「水」を刺激色彩として用いていない。「水」に近い色彩として、「青緑」に
ついて色と感情の関係について明記している。その中に「安息」という連想語がある¹³。このこ
とから、保育士の職業が、子どもに安心感を与える職業であることを学生は理解していると考
えられる。

その他、幼稚園教諭の職業イメージでも挙がっていた「オレンジ」や、「黄」に象徴される、
明るく快活なイメージがあることも示唆された。

3-2 色彩連想テストによる幼稚園教諭と保育士の職業イメージの比較

ここでは、上記における3-1の「色彩連想テストによる幼稚園教諭と保育士の色彩連想反応
の結果」から、幼稚園教諭と保育士の職業イメージの比較を行う。図1は、幼稚園教諭の職業
イメージの色彩反応の結果を円グラフで示したものであり、図2は、保育士の職業イメージの
色彩反応の結果を円グラフで示したものである。

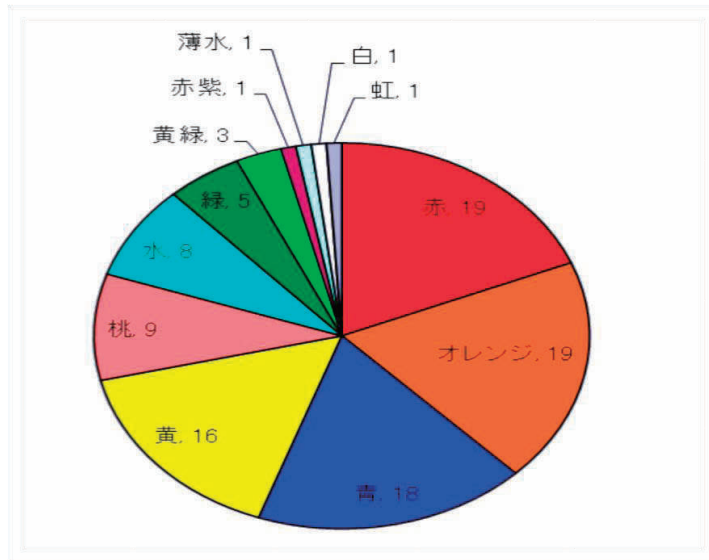


図1 幼稚園教諭の職業イメージの色彩反応の結果

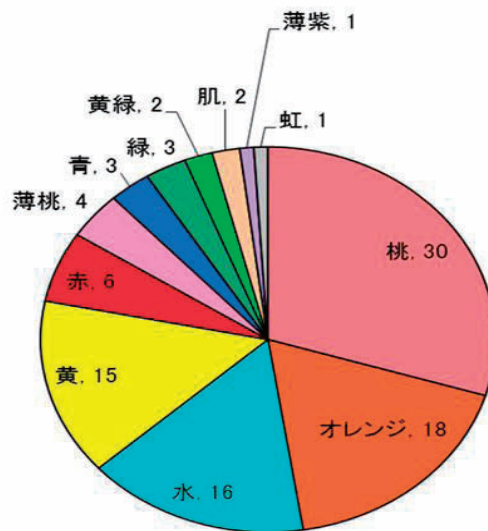


図2 保育士の職業イメージの色彩反応の結果

幼稚園教諭の連想色彩名のうち、10%以上の連想率があった色彩名は、「赤」「オレンジ」「青」「黄」であり、この4色はほぼ同率であった。また、保育士の連想色彩名のうち、10%以上の連想率があった色彩名は、「桃」が圧倒的に高く、2位以下の連想よりも2倍近く多くなってい

園田：幼稚園実習と保育実習を経験した学生が抱く幼稚園教諭と保育士のイメージの比較。続いて「オレンジ」「水」「黄」の3色がほぼ同率であった。

幼稚園教諭と保育士の職業イメージの結果を比較すると、それぞれ異なる色彩名と、共通の色彩名が挙げられる。幼稚園教諭では、「赤」「青」のイメージがあり、保育士は、主として「桃」「水」のイメージを持っていることがうかがえる。また、「オレンジ」「黄」が両者にほぼ同じ割合で連想色彩名として挙がっている。つまり、「オレンジ」と「黄」は、幼稚園教諭と保育士の職業イメージに共通する連想色であると考えられる。

幼稚園教諭は、「赤」をイメージしていることに対して、保育士については、「赤」より明度が高い「桃」をイメージしている。また、幼稚園教諭は、「青」をイメージしていることに対して、保育士については、「青」より明度が高い「水」をイメージしている。松岡（2001）によると明度が高い色ほど軽い感じを与え、明度が低い色ほど重い感じを与えると述べている¹⁴。

したがって、学生は、保育士の業務よりも、幼稚園教諭の業務の方が、何らかの負担感があると感じていると考えられる。

豊田ら（2001）は、保育園に対する赤色連想が少ないのは激しい感情を喚起させることが少ない可能性があるとして述べていた¹⁵。本研究においても、「赤」は5.94%であり、保育士の連想色として少ない。学生は、実習を経験することにより、幼稚園教諭の業務と保育士の業務を比較して、幼稚園教諭の方が保育中の情動の表出が多いと感じたのかもしれない。そのため、幼稚園教諭では「赤」を選択する学生が多く、保育士では「赤」を選択する学生が少ないという結果に至ったのではないだろうか。

しかし、両者の職業観には違いがあるものの、共通する点もあることが窺われた。それは、「オレンジ」に象徴される「陽気・にぎやか・暑い」というイメージや、「黄」に象徴される「歓喜・快活」というイメージから、学生は、幼稚園教諭も保育士も、元気で明るく喜びにあふれた職業であると捉えていることが考えられる。

4. 自由記述による幼稚園教諭と保育士の職業イメージの結果

4-1 幼稚園教諭と保育士の職業イメージ（テキストマイニングによる分析結果）

自由記述文から、マイクロソフトエクセルでテキストデータを作成し、「kh-corder」のソフトを用いてテキストマイニングによる幼稚園教諭と保育士の職業イメージの分析を行った。

幼稚園教諭と保育士の職業イメージの違いを、それぞれの業務行為の差として捉えるならば、動詞に違いが表れると考えられる。表3は、幼稚園教諭と保育士の職業イメージの自由記述から、動詞を抽出したものである。

幼稚園教諭は、「教える」という動詞が最も多く、次いで「叱る」「書く」「怒る」「遊ぶ」といった動詞が多かった。保育士は、「見守る」という動詞が最も多く、次いで「育てる」「付ける」「遊ぶ」という動詞が多かった。「預かる」という動詞は、保育士の方が多く、「見る」という動詞は、幼稚園教諭と保育士と共通の動詞であることがわかる。

表3 幼稚園教諭と保育士の職業イメージ（動詞の抽出語の出現回数）

動詞							
幼稚園教諭				保育士			
抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
教える	24	食べる	2	見守る	12	変わる	2
叱る	10	整う	2	育てる	6	違う	1
書く	8	配る	2	付ける	6	沿う	1
怒る	6	応じる	1	遊ぶ	6	覚える	1
遊ぶ	6	間違う	1	見る	5	楽しむ	1
付ける	5	関わる	1	築く	5	関わる	1
見る	4	迎える	1	預かる	5	休める	1
接する	4	決まる	1	教える	4	迎える	1
知る	4	見える	1	寄り添う	3	遣う	1
追う	4	見守る	1	守る	3	残せる	1
動く	4	見抜く	1	知る	3	使う	1
育てる	3	使う	1	読む	3	持てる	1
休める	3	従う	1	扱う	2	受け持つ	1
決める	3	乗る	1	勤める	2	進む	1
考える	3	絶やす	1	行う	2	整える	1
降る	3	弾く	1	受け止める	2	走り回る	1
受け止める	3	弾ける	1	書く	2	怒る	1
読む	3	築く	1	笑う	2	動き回る	1
疲れる	3	動き回る	1	食べる	2	疲れる	1
褒める	3	悩む	1	接す	2	描く	1
覚える	2	間く	1	接する	2	付き合う	1
寄り添う	2	預かる	1	続ける	2	眠る	1
残す	2	立つ	1	働く	2	落ち着く	1

実習で幼稚園教諭の動きを目の当たりにして、子どもに何かを「教える」という業務のイメージを持ったことがうかがわれる。その中で、子どもに「叱る」こともあり、教師として子どもに対する厳しさを持つことも必要な仕事であると認識していることがうかがわれる。また、「書く」ということから、幼稚園教諭の事務業務の多さを感じていることがわかる。

一方、保育士に対しては、子どもと「遊ぶ」ことで「育てる」という生活に寄り添ったイメージを持っている。そして、保育士の業務は、子どもを見守りながら「預かる」と捉えていることがうかがわれる。

次に、表3で分析した幼稚園教諭と保育士の職業イメージの主な動詞の抽出語が、どのようなことばと結びついているのか、また、それぞれの職業イメージの特徴について単語の結びつきから検討する。

図3は、幼稚園教諭の職業イメージの共起ネットワーク図である。

園田：幼稚園実習と保育実習を経験した学生が抱く幼稚園教諭と保育士のイメージの比較

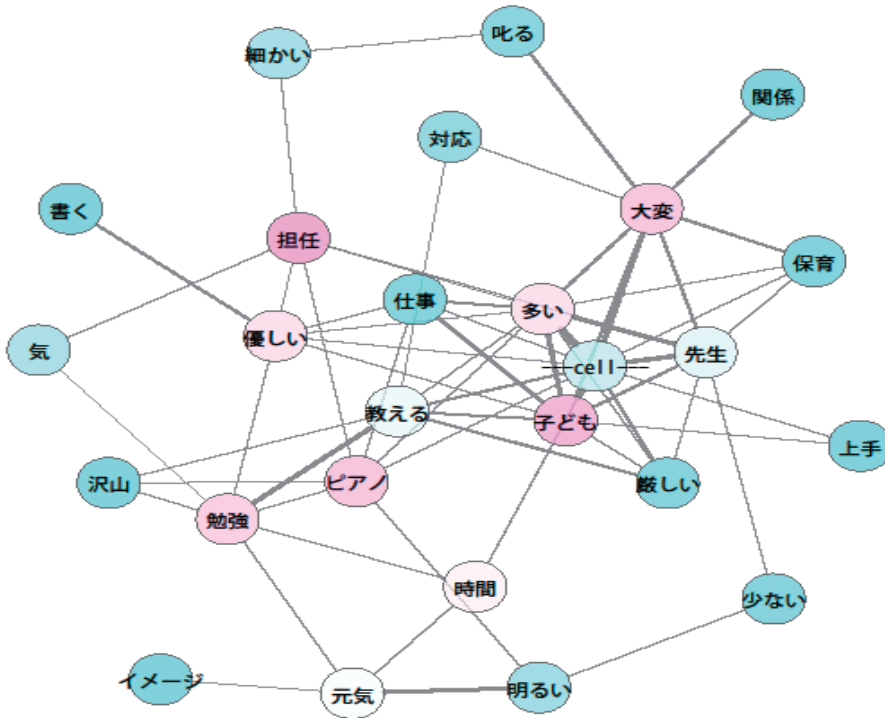


図3 幼稚園教諭の職業イメージの共起ネットワーク

幼稚園教諭のイメージは、主に「教える」という動詞が挙がっていた。「教える」という動詞は、「勉強」「仕事」「厳しい」「子ども」「沢山」「多い」と結びついている。幼稚園の実習で、幼稚園教諭が子どもに対して教える場面を多く見かけ、その場面を見て厳しさを感じたのかもしれない。幼稚園では、文字や数字を教える園もあり、勉強を教えるイメージを持っていることもうかがえる。その他に、「ピアノ」を弾くことや、「細かい」ことに気を遣いながら、クラスの「担任」を持つということも幼稚園教諭の大事な仕事と捉えていると考えられる。

「大変」の単語には、「叱る」の動詞の他に、「保育」「子ども」「関係」「対応」「先生」「多い」という単語と結びついている。学生は、実習先の幼稚園教諭の日々の姿を見て、叱ることで子どもへの対応や、保育という業務の大変さを抱えていると感じていることが考えられる。

反面、「優しい」と「子ども」という単語がつながっている。これは、幼稚園教諭が行う保育の中には、優しさと厳しさの両面での指導方法があるということも学生は、理解していることがうかがえる。このような日々の仕事の大変さの中にも、幼稚園教諭は、「明るい」「元気」なイメージを学生は、もっていることが示唆された。

続いて、自由記述における保育士の職業イメージについて検討する。図4は、保育士の職業イメージの共起ネットワーク図である。

園田：幼稚園実習と保育実習を経験した学生が抱く幼稚園教諭と保育士のイメージの比較
い「関係」とつながっていることから、園との関係性や個々の人間関係がよいイメージである
ことがうかがわれる。

4-2 自由記述による幼稚園教諭と保育士の職業イメージの比較

学生の自由記述から、幼稚園教諭は、子どもに教えることが仕事であり、保育士は、子ども
を見守り育てるという職業イメージを持っていることが示唆された。両者には、「教える」と「見
守る」という動詞の違いがある。幼稚園教諭の主な職業行為は「教える」であり、保育士の主
な職業行為は「見守る」である。両者の職業行為として認識されている「教える」と「見守る」
という違いが、幼稚園教諭と保育士の職業イメージの違いを生み出しているものと考えられる。

幼稚園教諭と保育士の職業イメージとして共通にあるのは「大変」という単語である。学生
は、どちらも「大変」な仕事として認識している。しかし、この大変さには違いがある。幼稚
園では、保育の中で子どもを叱るなどその対応や関係性の中に大変さを感じていると考えられ
る。保育士は、乳児との関わりや行事の大変さを感じている。しかし、「関係」には「明るい」
と結びついていることから、保育士には大変さが伴うものの、大変な仕事内容の中もポジテ
ブな印象も持っていることがうかがわれる。

5. 総合考察

本稿は、幼稚園実習及び保育実習を終えた学生の幼稚園教諭と保育士の職業イメージの違い
について検討するものであった。この研究手法として、色彩連想テスト及びテキストマイニン
グによる自由記述の分析を行った。

色彩連想テストにおいては、松岡(2001)の理論から、学生の幼稚園教諭の職業イメージは、
「赤」に象徴される「情熱・怒り」などの感情の強ききついイメージを持つ反面、「青」に象徴
される「冷静な・落ち着いた」というイメージを持っていることが示された。これは、学生が、
幼稚園教諭は喜怒哀楽の感情表現を豊かに保育、教育しつつも、常に様々な場面で、客観的な
判断を求められる職業であると考えていることがうかがわれた。

幼稚園教諭が保育士と異なる点として挙げられるのは、学校教育法において35人以下の学
級編制が義務付けられており、学級の担任業務があるということである。幼稚園においてはク
ラス編制に法的な縛りがあるため、保育というよりも学校としてのイメージを持たれやすいの
かもしれない。

保育所では、クラスを複数で担当するが、幼稚園では一人担任制が多い。幼稚園の実習先で、
一人担任制の実態を目の当たりにして、業務の負担感を学生が感じ取った可能性がある。幼稚
園において、標準4時間とされる限られた時間の中で、クラスを担当し、一人でたくさんの子
どもを教育する幼稚園教諭の業務の大変さが、明度に重さのある「赤」や「青」が色彩反応と
して表れたと考えられる。

また、保育士は、主として「桃」に象徴されるように、「弱い、やさしい、快い」など温和なイメージや、「水」に象徴されるように、幼稚園教諭よりもソフトなイメージを持っていることが示唆された。これは、学生が、保育士業務は養護の視点である「子どもの生命の保持及び情緒の安定」という、乳児や幼児に対する弱き存在への配慮があることを理解していると考えられる。

保育所では、基本的に複数担当制である。また、長時間の保育の中で、家庭的な生活に寄り添った保育を見て、「赤」や「青」よりも明度の軽い「桃」や「水」の色彩を連想したとも考えられる。

幼稚園教諭と保育士の職業イメージの自由記述については、テキストマイニングの手法により、分析を行った。動詞の抽出語から、幼稚園教諭は、子どもに教えることが仕事であり、保育士は、子どもを見守り育てるというイメージを持っていることが示唆された。

幼稚園教諭は、「ピアノ」を弾く機会が多く、1人で「担任」を持つこともある。また、教育の場面においては、子どもを「叱る」こともあり、学生側から見て幼稚園教諭という仕事に対して保育士よりも、負担感を感じている可能性がある。それは、色彩連想テストで「情熱・怒り」の強い情動を連想する「赤」と反応していることから言えることである。しかし、幼稚園教育の中の「叱る」という行為は、冷静さが必要である。そのため幼稚園教諭には、「青」に象徴される「冷静な・落ち着き」も必要ということを学生は理解している。反面、「優しい」と「子ども」という単語がつながっている。これは、幼稚園教諭が子どもに対して厳しさと共に優しさで対応する場面を、実習先で学生が見てきたものから得られたイメージであると考えられる。

保育士については、動詞の分析から子どもを「見守る」イメージを持っていることが示唆された。それは、生活の中で、温かな雰囲気の中で、子どもを見守り、成長を支えるということであった。これは、優しさを表す「桃」や、柔らかなイメージのある「水」の色彩反応からも言えることである。「桃」には、「赤ちゃん」や「命」を表す場合もある。この「赤ちゃん」や「命」については、保育士の職業イメージの自由記述に出てきた単語と一致している。そして、大切な命を預かる重要な仕事の割に、保育士の給与が比例していないことも学生は理解していた。

幼稚園教諭と保育士は、どちらも大変な業務であると学生は認識している。しかし、両者に「明るい」という単語が含まれていることから、大変さの中にやりがいを見つけられる職業であると感じていることがうかがわれた。

幼保一元化の動きが、活発化しているが、これから、保育職に就こうとしている学生は、実習経験により、すでに幼稚園教諭と保育士の違いを認識している。そして、実習から得た職業イメージにより、自分に合うのは、幼稚園教諭なのか保育士なのか見極め、就職決定にも影響を及ぼしていることが考えられる。

園田：幼稚園実習と保育実習を経験した学生が抱く幼稚園教諭と保育士のイメージの比較

今後の課題として、幼稚園教諭と保育士の職業イメージをそれぞれどのように捉え、その考えがいかんして職業決定につながっているのか縦断的に見ていくことも必要であると考え。

引用文献：

¹内閣府（2012）「子ども・子育て支援新制度」

※子ども・子育て支援新制度とは、2012年8月に成立した「子ども・子育て支援法」、「認定こども園法の一部改正」、「子ども・子育て支援法及び認定こども園法の一部改正法の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律」の子ども・子育て関連3法に基づく制度のことをいう。

² 同上

※幼児期の学校教育・保育の総合的な提供・幼稚園と保育所の良さをあわせもつ施設（幼保連携型認定こども園）の改善、普及の促進を主な内容の中で明記されている。

³内閣府（2014）資料「一時預かり事業について」

⁴厚生労働省（2008）「保育所保育指針」

⁵文部科学省（2017）「学校教育法施行規則の一部を改正する省令案並びに幼稚園教育要領案、小学校学習指導要領案及び中学校学習指導要領案に対する意見公募手続（パブリック・コメント）の実施について」

<http://search.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=&Mode=0>

厚生労働省（2017）「保育所保育指針の全部を改正する件」に関する御意見募集について

<http://search.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=495160408&Mode=3>

内閣府子ども・子育て本部（2017）「幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改訂に関する件（案）」

<http://search.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=095170130&Mode=3>

内閣府子ども・子育て本部（2017）「幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改訂に関する件（案）」

⁶鈴木 順子（2014）子育て支援における幼保一元化・幼保一体化の研究 —豊田市における保育・子育て支援施策の事例検討を通して—

⁷塘 利枝子（2010）「日本における幼児教育・保育と保育者の人材育成」幼児教保研究期刊 第5期 pp.60-63

※1963年には文部省と厚生省の共同通知で「保育所の持つ機能のうち、3～5歳児の教育に関するものは、幼稚園教育要領に準ずることが望ましい」、1981年の幼稚園及び保育所に関する懇談会報告では「幼稚園の預かり保育、保育所の私的契約などの両施設の弾力的運用について検討する必要がある」、1987年の臨時教育審議会第3次答申では「3～6歳児については、幼児教育の観点から、教育内容を共通的なものにするのが望まれる」などと提言されている。

⁸松永しのぶ、坪井寿子、田中奈緒子、伊藤嘉奈子（2002）保育実習が学生の子ども観、保育士観におよぼす影響 鎌倉女子大学紀要 第9号 pp.23-33

⁹原 孝成（2004）保育実習の体験と保育士のイメージの関連 西南女学院短期大学研究紀要 50、 pp.1-8

¹⁰樟本千里・小河晶子・岡田恵子・伊藤智里・中井靖（2007）保育者の就業自己イメージの変容：幼稚園実習前後の就業自己イメージの比較 川崎医療短期大学紀要 27 pp.59-63

¹¹豊田 弘司・米谷 光弘・圓 正博（2008）色彩連想テストにおける幼児教育概念の心理的意味 —保育士・幼稚園教諭、母親、女子学生の比較— 奈良保育学院研究紀要 第13号 pp.65-70

¹²同上

¹³松岡 武（2001）『色彩とパーソナリティ—色で探るイメージの世界』p.16 金子書房

¹⁴松岡 武（2001）『色彩とパーソナリティ—色で探るイメージの世界』p.16 金子書房

¹⁵豊田 弘司・米谷 光弘・圓 正博（2008）色彩連想テストにおける幼児教育概念の心理的意味 —保育士・幼稚園教諭、母親、女子学生の比較— 奈良保育学院研究紀要 第13号 pp.65-70

付記： 本稿における色彩連想テストによる調査内容は、日本教育心理学会第57回大会において発表した「保育学生の幼稚園教諭と保育士の職業イメージの違い—色彩連想テストから—」の分析結果を基に加筆修正したものである。また、自由記述による調査内容は、日本保育学会第68回大会において発表した「保育学生が抱く幼稚園教諭と保育士の違い—保育者論の授業から—」の分析結果を基に加筆修正したものである。